

児童虐待が問題となる家庭事件の実証的研究—深刻化のメカニズムを探る—



監修 : 家庭裁判所調査官研修所
 定価 : 本体 952 円 + 税
 判型 : A5 判
 ページ数 : 98 ページ(本文 78 ページ)
 ISBN : 書店扱いあり
 発行 : 平成 15 年 4 月

内容

本書は、家庭裁判所が取り扱った児童虐待が問題となる事件を実証的に研究して、虐待が深刻化する背景及び原因、虐待が児童の心身の成長及び発達に与える影響等を分析しています。家庭、学校、家庭裁判所その他児童福祉にかかわる関係機関が児童虐待のメカニズムについての確に理解し、共通の認識を持つことにより、児童虐待への適切な対応及び各機関相互の連携を充実、また、児童虐待問題に関心を持つ一般の方々にも参考にしていただける研究書となっております。

目次

はじめに	4 親に対する子どもの態度	第5章 虐待にかかわる機関はどのような役割を果たせばよいか
第1章 虐待は子どもにどのような影響を与えているのか	第3章 虐待はどのように深刻化するのか	1 虐待の発見と初期対応
1 身体への影響	1 虐待が深刻化するメカニズム	2 虐待の深刻化を防ぐためのかわり
2 知的発達への影響	2 親が虐待を認めない心理	3 親に対するサポート
3 情緒、心理面への影響	3 虐待の悪循環	4 親子を分離した後のケア
4 行動への影響	4 親とそのパートナーとの関係	5 地域における虐待の防止
5 対人関係への影響	第4章 虐待は非行にどう影響するのか	6 関係機関の連携
第2章 虐待が生じた家族にはどのような特徴があるのか	1 虐待と非行との関係	おわりに
1 家族の状況	2 非行のタイプと虐待との関係	
2 親の特徴	3 虐待を受けた子どもの非行からの立ち直りの難しさ	
3 子どもに対する親の態度、構え		